

使用上のご注意

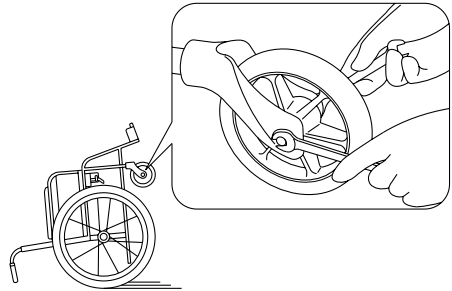
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

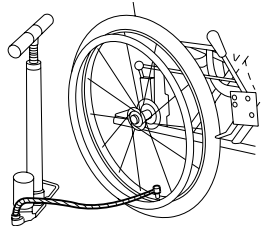
⚠警告

キャスト、駆動輪、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



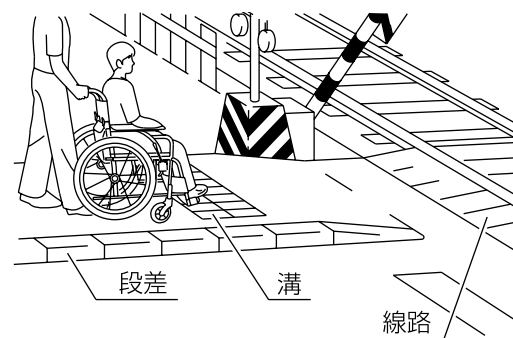
- 

タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)


- ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。
- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)
- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャストの挟み込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

 **Miki**

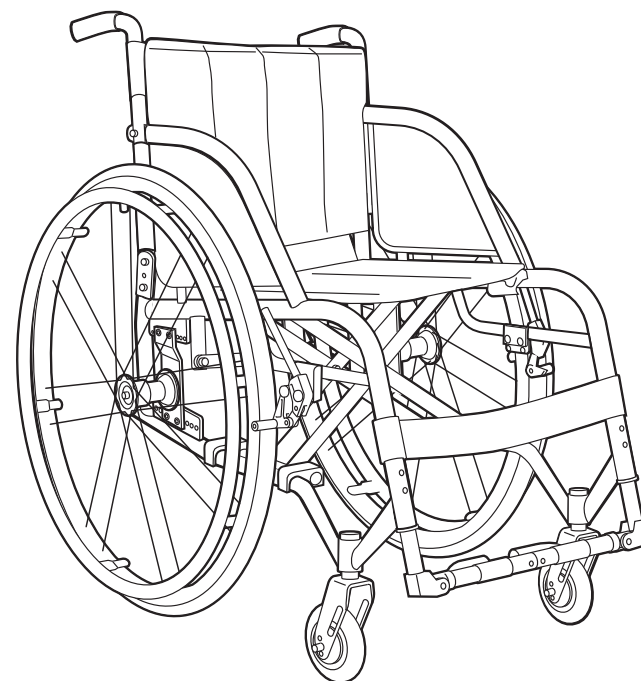
株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
TEL 052-694-0333 FAX 052-694-0800

1102-001

NOVA ZERO

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	4
仕様	4
本製品について	4
使いかた	5
車いすの開きかた	5
乗り降りのしかた	5
車いすの持ち上げかた	6
車いすのたたみかた	6
各部の調節のしかた	7
ブレーキの調節	7
座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節	8
フットサポートの高さ調節	10
バックサポートの張り具合調節	10
バックサポート(背もたれ)の張り具合調節	11
転倒防止バーの位置調節	11
使用上のご注意	12
保守・点検	12
走行上のご注意	12



安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



スピードを出さないでください。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



下り坂ではハンドリムを使ってスピードを落とし、ゆっくり走行してください。



自走用であっても自力で操作不可能な坂道等では、介助者を伴ってください。



乗車したまま、階段を下りたりしないでください。



通常は、必ず転倒防止装置(オプション)が機能するように取り付けて使用してください。後方へ転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。



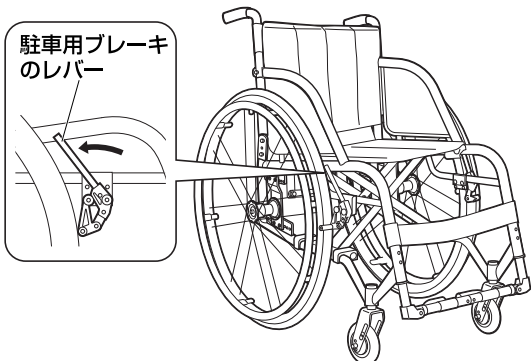
乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。



乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキを掛けてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



警告



手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。



使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、座シートより下の本体フレームを持ってください。それ以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者が転倒または落下し、事故やけがにつながる恐れがあります。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



各部を調整する場合は平坦な場所で行なってください。車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。



座高および後車輪の前後位置調節は、販売店へご依頼ください。



タイヤの空気圧低下に注意してください。タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効きが悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。



注意



この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。



フレームに最大体重(積載物も含む)が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。



走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。



走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。けがをする恐れがあります。



操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。



折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさみ危険です。



使用する前に駆動輪・キャストの車輪・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



フットサポートは地上より50mm以上あげた状態で使用してください。



暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。



段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。車いすの破損や故障の原因となります。



車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。また車いすを長時間、車内やトランク内に載せたままにしないでください。車いすの破損や故障の原因となります。

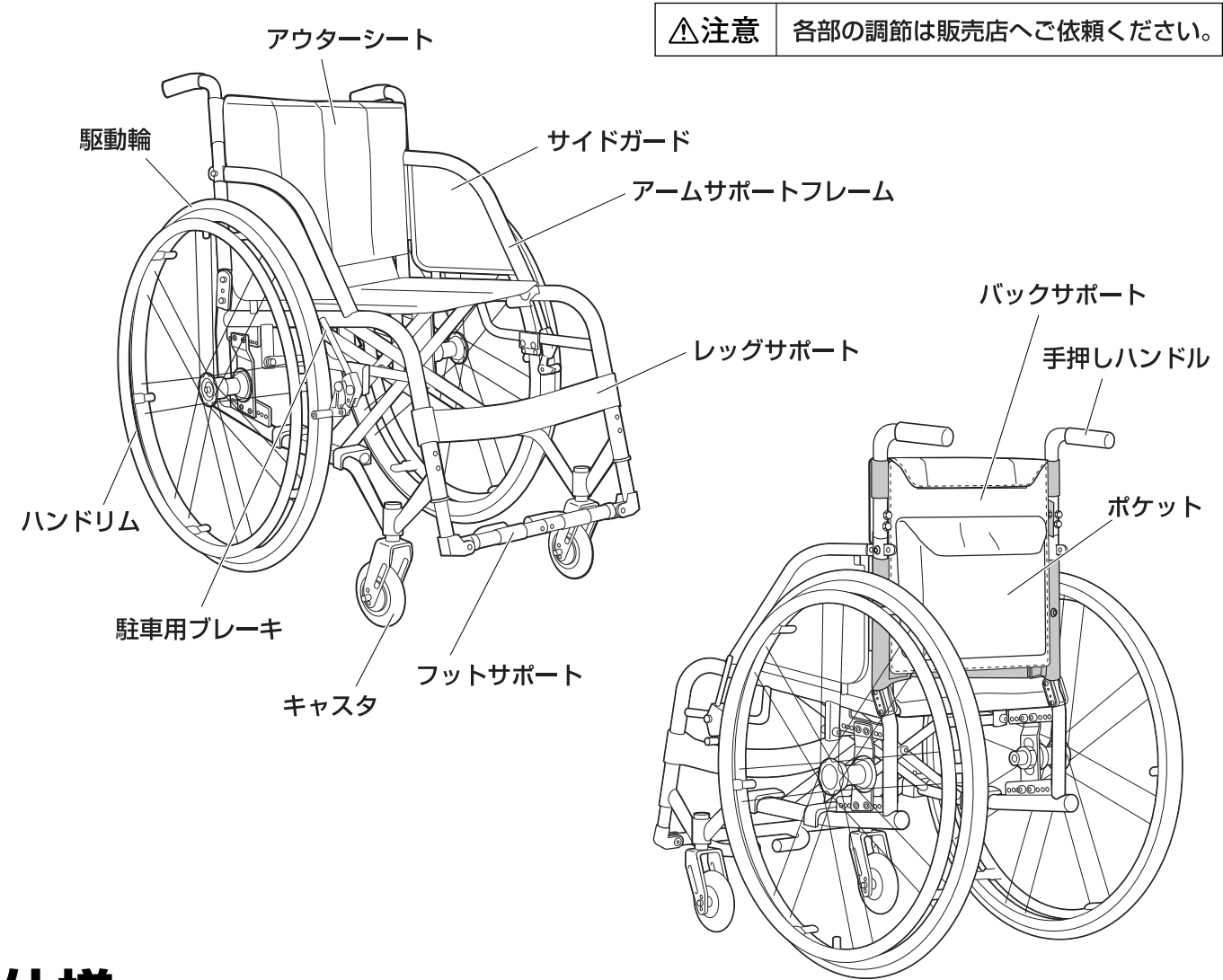


タイヤの空気圧低下に注意し、必要場合は補充してください。タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損するおそれがあります。



シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

各部のなまえ



仕様

形 式		NOVA ZERO	(単位：mm)
材 質	フレーム	アルミ	
寸 法	全 幅	535 (シート幅360の場合)	
	全 長	880 (車軸位置0時、フットサポート長370の場合)	
	全 高	790 (前座高445時、バックパイプミドルの場合)	
	シート幅	340・360・380・400	
	前座高	425・445	
	バックシート高	280・330・380	
	背角度	85°・90°・95°	
	座角度	7度	
	駆 動 輪	24インチ	
	キャスタ車輪	4インチ (ワイド)	
折り畳み幅		300	
重 量		12Kg～	

* 製品によっては、一部仕様が異なる場合があります。

本製品について

本製品NOVA ZEROは、標準機能の他に、必要に応じてお選びいただけるオプション機能を多数用意しております。オプション機能は本製品をご注文時にお選びいただけますので、お車ごとに装備内容が異なります。本取扱説明書では、オプション機能についての記載内容に **オプション** マークを付けています。ご自分の車いすに装備されたオプション機能をご確認の上、必要な箇所をお読みください。

使いかた

車いすの開きかた

△注意 シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。

- 1

駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2

シートパイプを手で平で押し下げます。
*シートパイプを握らないでください。
*片側の車輪を少し浮かせた状態で開くと、スムーズに開きます。

乗り降りのしかた

△警告 乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。

- 乗りかた

1

車いすを自分の真横によせます。

2

駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 3

車いすをしっかりと持ち、腰を浮かせてゆっくり乗り移ります。

4

両足をフットサポートに乗せます。

● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。
- 5

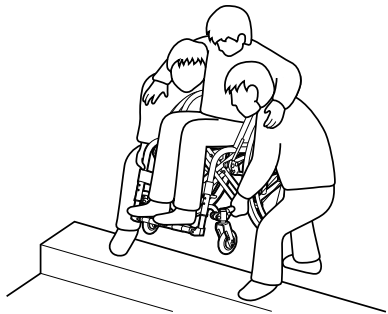
車いすの持ち上げかた

⚠警告 車いすを持ち上げる場合は必ずフレームを持ってください。駆動輪のスポーク等を持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

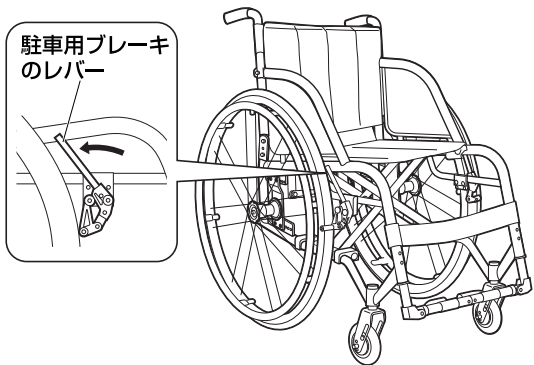
車いすに乗ったまま吊り上げるときは二人以上で行ない、使用者の上半身を支え、車輪とフレームを両側からしっかり持って持ち上げます。

*使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。

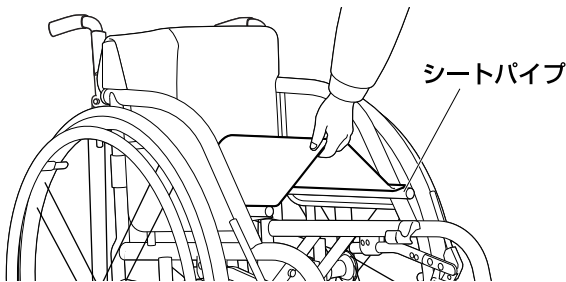


車いすのたたみかた

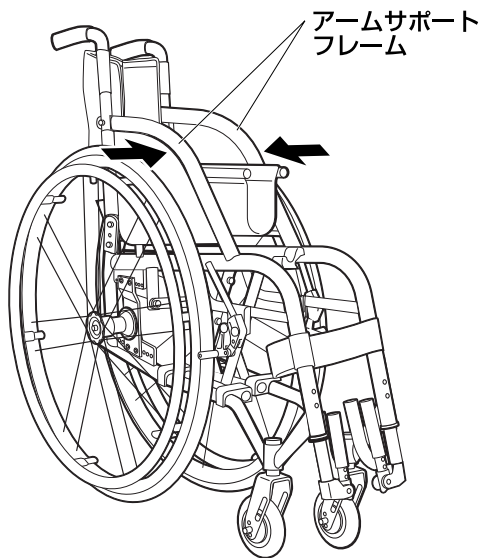
1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



2 座シートの前端を持ち上げ、シートパイプを引き寄せます。



3 アームサポートフレームを両側から押し、座シートを折りたたみます。



各部の調節のしかた

⚠警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

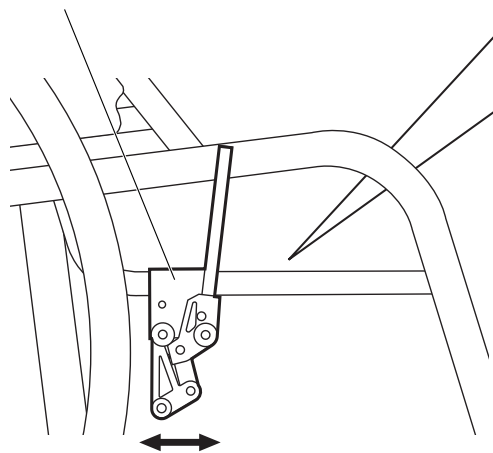
ブレーキの調節

駐車用ブレーキのかかり具合が悪いと、立ち上がり時やベッドなどに移るときに大変危険です。ブレーキは随時チェックし、下記方法に従って調節してください。

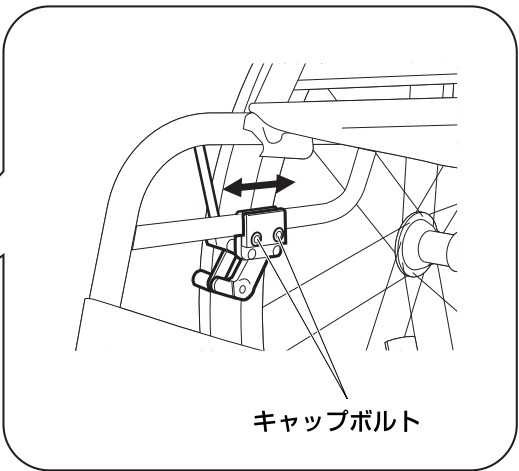
使用工具：5mmLレンチ

- 1** タイヤの空気圧が適正か確認します。
- 2** ブレーキをかけた状態で駆動輪を手で回します。手で回るようなら、ブレーキのかかりが悪いので以下の方法で調節します。
- 3** キャップボルトを、レンチを使用してゆるめます。
- 4** 駐車用ブレーキ本体を前後にスライドさせ、適当な位置でキャップボルトを軽く締め、仮固定します。
- 5** ブレーキのかかり具合を確認します。かかりが良ければ、キャップボルトをしっかりと締め本固定します。かかりが悪ければ、手順4～5を繰り返します。
- 6** 同様に、反対側のブレーキの確認・調節をします。

駐車用ブレーキ本体



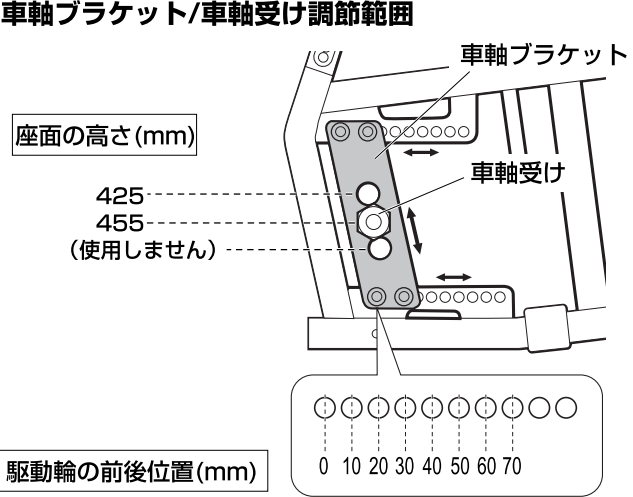
キャップボルト



座面の高さおよび駆動輪の前後位置調節

車軸ブラケットの取付位置を変更することで、駆動輪の前後位置を8段階に調整することができます。車軸受けの取付位置を変更することで、座面の高さが調節できます。

- ・ 駆動輪の前後位置を変更する場合、同時に駐車用ブレーキの調整が必要になります。
- ・ 座面の高さを変更したら、同時にキャストと駐車用ブレーキの調整が必要になります。
- ・ 車軸ブラケット、車軸受けおよびキャストは、左右とも同じ位置に調節してください。



⚠危険

- ・ 使用者を乗せたまま調節を行うのは、絶対におやめください。
- ・ 駆動輪を前寄りに設定すると、操作はしやすくなりますが、バランスが損なわれ後方に転倒しやすくなります。使用状況を十分に考慮した上で調節してください。

⚠注意

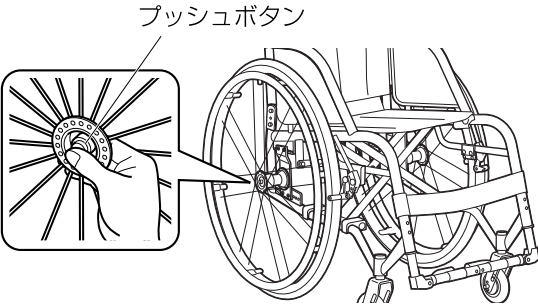
駆動輪の前後位置および座面の高さ調節は、販売店にご依頼ください。

駆動輪の前後位置を調節する

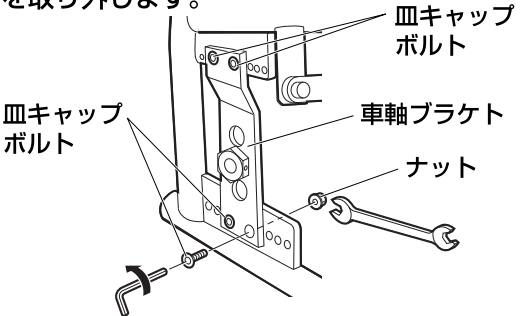
駆動輪の位置を前寄りに設定すると、小回りがきくなど車いすの動きが軽快になり扱いやすくなります。その反面、後方へ転倒しやすくなりますのでご注意ください。

使用工具：4mmLレンチ、10mmスパナ

- 1 ブレーキを解除します。
- 2 車軸中心のプッシュボタンを押しながら、車軸ごと駆動輪を引き抜きます。



- 3 皿キャップボルト（4本）の頭をLレンチで固定しながら反対側のナットをスパナなどで回して、皿キャップボルト（4本）、車軸ブラケットを取り外します。



- 4 駆動輪の位置をを決め、車軸ブラケットを皿キャップボルト（4本）とナット（4個）で取り付けます。
- 5 手順2と逆の要領で、駆動輪を車軸受けに差し込みます。
- 6 駆動輪ががたつかず、車軸ブラケットがしっかり固定されていることを確認します。さらに、駆動輪が抜けないことを確認します。
- 7 反対側の車軸ブラケットの取付位置も同様に変更します。

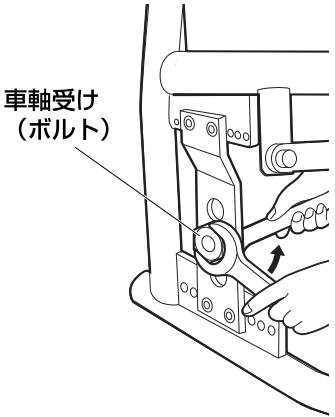
* 駐車用ブレーキを調節してください。（7ページ「ブレーキの調節」参照。）

* 転倒防止バーを取り付けている場合は、転倒防止バーの位置を調節してください。（11ページ「転倒防止バーの位置調節」参照。）

座面の高さを変える

使用工具：21mmスパナ、22mmスパナ（またはモンキーレンチ）

- 1 前項「駆動輪の前後位置を調節する」の手順2の要領で、駆動輪を取り外します。
- 2 車軸受け外側のボルト頭をスパナで押さえながら、車軸受け内側のナットをスパナ（またはモンキーレンチ）を使用して取り外します。



- 3 車軸受けの取付位置を決め、手順2の逆の要領で車軸受けを差し込み、固定します。
- 4 駆動輪を車軸受けに差し込みます。
- 5 駆動輪ががたつかず、車軸受けがしっかり固定されていることを確認します。さらに、駆動輪が抜けないことを確認します
- 6 反対側の車軸受けの取付位置も同様に変えます。

* 駐車用ブレーキとキャストを調節してください。（7ページ「ブレーキの調節」、9ページ「キャストの高さを変える」参照。）

* 転倒防止バーを取り付けている場合は、転倒防止バーの高さを調節してください。（11ページ「転倒防止バーの位置調節」参照。）

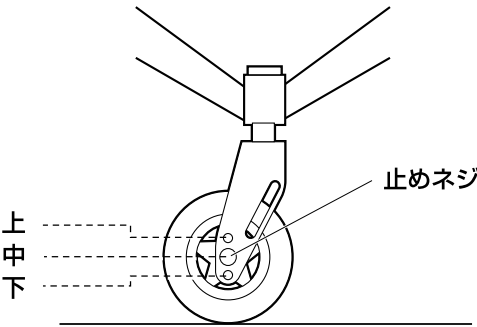
キャストの高さを変える

車軸受け位置（座面の高さ）を変更したら、それに対応する高さにキャストの高さも変更してください。キャストを取り付ける穴の位置を以下の手順で変更してください。

使用工具：4mmLレンチ、10mmスパナ

車軸受け/キャスト取付位置対応表		
座面高	車軸受け取付位置	キャスト取付位置
425mm	上	上
445mm	中	下
(使用しません)	下	中

- 1 止めねじ（1本）をLレンチとスパナを使用して外し、キャストを取り外します。
- 2 上記の対応表に合わせてキャストを取り付ける穴位置を決めます。
- 3 手順1と逆の要領でキャストを取り付け、固定します。
- 4 キャスタがしっかり固定されていることを確認します。また、キャストがスムーズに回転することを確認します。
- 5 もう片方のキャストも同じように高さを変更します。

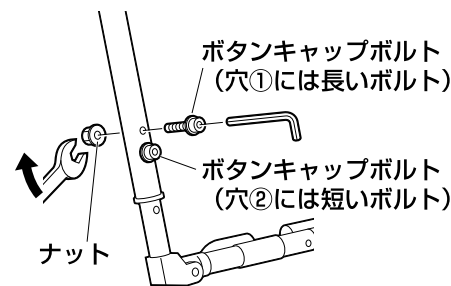


フットサポートの高さ調節

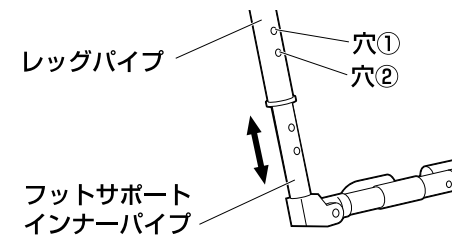
使用者に合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。調節は、レッグパイプ上の高さ調節用穴(6箇所)へのボタンキャップボルトの取付位置を変えることで行ないます。

*フットサポートは左右とも同じ高さに調節してください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ボタンキャップボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットをスパナなどで回して外し、ボタンキャップボルト左右4本を取り外します。



- 3 両側のフットサポートを適切な高さに調節し、ボタンキャップボルトを通す穴を決めます。



- 4 レッグパイプの穴①、穴②に、ボタンキャップボルト2本を通します。
- 5 ボタンキャップボルトの頭をレンチで固定しながら、反対側のナットを締め付けて固定します。

*フットサポートがしっかり固定されていることを確認してください。
*穴②には、短いボルトを使用してください。ナットは使用しません。

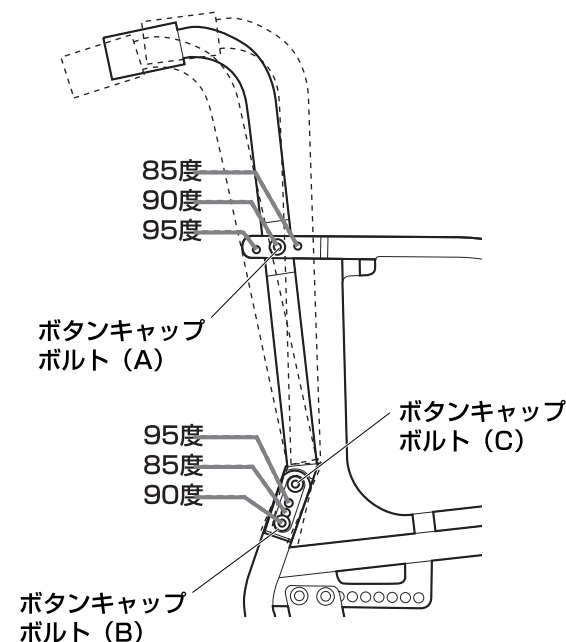
バックサポート（背もたれ）の角度調節

バックサポート（背もたれ）の角度を調節することにより、快適な座り心地を保つことができます。

バックサポート（背もたれ）は3段階（85度、90度、95度）に調節することができます。

使用工具：4mmLレンチ、10mmスパナ

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 Lレンチを使用して、ボタンキャップボルト（C）をゆるめます。
- 3 Lレンチを使用して、ボタンキャップボルト（A）、（B）をそれぞれを取り外します。
- 4 バックサポートの角度を決め、右の図を参照し、決めた角度に対応する穴にボタンキャップボルト（A）、（B）をそれぞれ取り付けて固定します。
- 5 ボタンキャップボルト（C）を締め付けます。
- 6 もう片方のバックサポートも同じ位置に調節してください。



アドバイス

取り外したボルト（A）、（B）を取り付けて調節するときは、（A）、（B）両方のボルトを軽く締め、両方のボルトがある程度締まってから、工具にて固定するようにしてください。

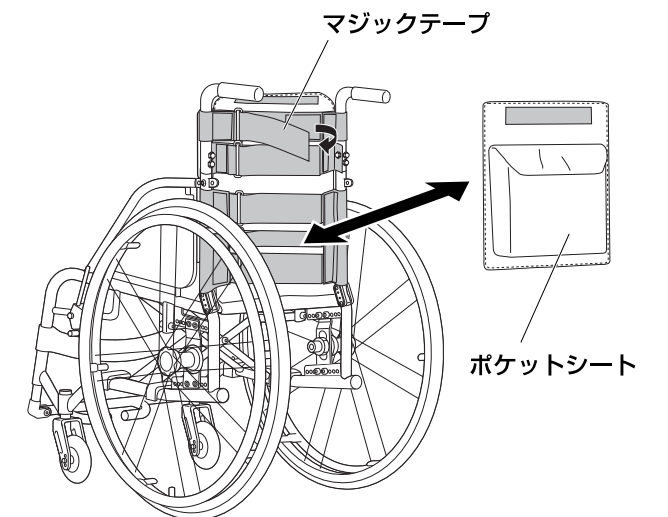
バックサポート（背もたれ）の張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しております。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

- *調節は使用者を乗せた状態で行なってください。
- *ポケットシートを外して調節を行なうと、効果を確認しやすくなります。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 下から上の順に、ベルトのマジックテープを貼り直してベルトの張り具合を調節します。

*アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。
*過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すこととなりますので、十分注意して行なってください。
*リハビリセラピストまたは販売員のアドバイスを受けられることをお奨めします。
*マジックテープ面に糸くず、汚れ等がついた際は、接着力が弱くなりますので取り除いてください。



転倒防止バーの位置調節

オプション

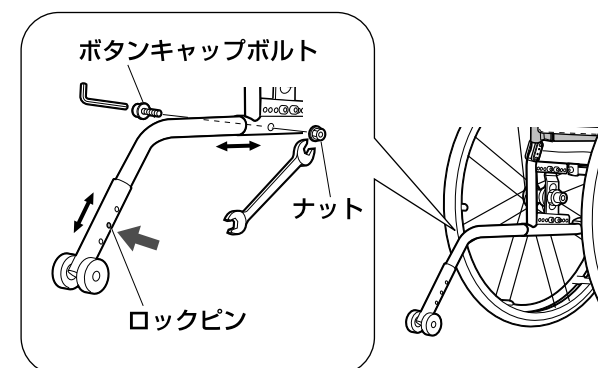
転倒防止バーの高さと前後位置を調節することができます。

- *座面の高さおよび駆動輪の前後位置を変えたときは、必ず転倒防止バーの位置調節を行なってください。
- *転倒防止バーは左右とも同じ位置に調節してください。

高さ調節のしかた

高さ調節用穴（3箇所）を使用して調節します。

- 1 ロックピンを指で押し込み、転倒防止バーを上下にスライドさせて適切な位置に調節し、ロックピンで固定する穴を決めます。
- 2 手順1で決めた穴をロックピンで固定し、確実に固定されたことを確認します。
- 3 もう片方の転倒防止バーも同じ高さに調整します。



前後位置調節のしかた

前後位置調節用穴（2箇所）を使用して調節します。

使用工具：4mmLレンチ、10mmスパナ

- 1 Lレンチとスパナを使用して、ボタンキャップボルトを取り外します。
- 2 転倒防止バーの前後位置を適正な位置に調節し、ボタンキャップボルトを取り付ける穴を決めます。
*転倒防止バーの転倒防止の車輪が駆動輪よりも後方に位置するように、位置決めをしてください。
- 3 手順2で決めた穴にボタンキャップボルトを通し、しっかりと締め付けます。
- 4 もう片方の転倒防止バーも同じ位置に調整します。